

令和6年度 全国学力・学習状況調査から

羽曳野市立駒ヶ谷小学校

今年度の「全国学力・学習状況調査の調査結果」（今年度は国語、算数と児童質問紙を実施）から分析した、本校児童（6年生）の学力・学習状況についてお知らせします。

なお、今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

I、国語・算数の教科の成果について

国語… 平均正答率が全国・大阪府の平均正答率を上回る結果となりました。その中でも、語句の意味や使われ方、思考力における書く力を問う問題で高い正答率でした。特に、「話し言葉と書き言葉との違い」の問題は全国と比較しても正答率が高くなっています。学校全体として「書く力」を重点的につけられるよう取り組んでいる成果が出ていると考えられます。

算数… 全国・大阪府平均を国語以上に上回る結果となりました。特に、小数の除法の計算の問題や、速さの意味についての問題は全国と比較しても高い正答率を記録しています。昼のチャレンジタイムでの復習や、やり直しの徹底を引き続き行うことで、基礎基本となる計算の力が定着してきています。

II、国語・算数の教科の課題について

国語… 今回、漢字の書き取りにおいて課題がみられました。また、資料を読み取って、表現を工夫したり集めた内容を分類したりといった問題の正答率は全国や大阪府の正答率と比較しても低くなっています。普段から既習の漢字の書き取りに力を入れていくとともに、他教科の授業でもグラフなどの資料を読み取る機会を作り、分かったことや比較を説明できるように指導していきたいと思います。

算数… 折れ線グラフや示された情報を読み取る問題に課題がみられます。また、図形の領域の中でも円の問題が、他の図形問題に比べて正答率が下がる傾向がありました。特に円周を使って、円柱の展開図の長方形の横の長さを求める問題が全国と比べても正答率が低かったです。円や球の問題に触れる機会を増やしていくとともに、グラフやデータの活用についても他

教科との教科横断的な学習を通して読み取れる力を養っていく必要性があると考えます。

総じて、国語より算数の正答率が低くなっているのも、算数に対する苦手意識をなくしていけるような授業づくりを進めていけるようにしたいと思います。

Ⅲ、児童質問紙について

1、学力調査について

国語については、問題を解く時間が、足りなかった児童が半分いました。

算数では、時間が余った児童が半分いました。

全体を通して、問題の文章が多く、必要な内容を読み取ることが難しいので読む力の育成が今後必要だと感じました。

2、学校生活について

今回の質問紙から分かったことは、国語は好きな児童が多く、国語が将来大切であると感じている児童が多かったです。

算数では、難しい問題が出るので、嫌いな児童もいるが、算数が大切であると感じ、生活に活かさないかと考えている児童が多いことが分かりました。

理科や外国語でも高い意欲が国語、算数と同様にあることが分かりました。

授業全体を通してタブレットの導入により、自分のペースで学習できることやわからないことを調べることができ、友だちと共有・協力することで学習の幅が広がっていると感じる児童が多かったです。

2、生活習慣について

基本的な生活習慣は定着しており、自尊感情も高く、困っている人がいたら、助けてあげたいという児童も多いです。日頃から、たてわり班活動を通じて、下級生との関わりを大切にしているからだと感じます。

3、お家での過ごし方について

放課後や休日の過ごし方として、家族や友だちと過ごすことが多いという結果を得ました。加えて休日にも家や塾・習い事などで学習や読書・運動をする児童が多く、何事にも一生懸命に取り組む児童が多いことに驚かされました。また、図書館司書が常駐で配置されて、読書に親しむ児童がより増えています。お家でもいろいろな本に触れている児童が、国語の読み取りの正答率が高かったです。

しかし、平日と休日ともゲームやスマートフォンを長時間（3時間以上）している子の正答率が低かったです。そして、視力が低下している児童も多く、健康面や情報モラルの面でも『ゲームやスマホとのより良い付き合い方』を指導していくことも大切であると感じました。家庭でも使用時間などのきまりを見直していただければ、働きかけていきたいです。

まとめとして、大阪府や全国の児童の回答と比べてみると、6年生児童は毎日の朝食摂取や睡眠時間の確保ができており、基本的な生活習慣が身についていると考えられます。また、学校のきまりを守ろうとする規範意識や学級みんなで協力するという集団意識も高いものがあり、良好な社会性が伺えます。これもひとえに保護者の皆様や地域の皆様が温かな気持ちで子どもたちの「育ち」を見守って頂いているお陰です。子ども達の健全な成長には、学校教育活動だけでなく家庭や地域の皆様のご家庭でのサポートも不可欠だと考えます。今後とも保護者や地域の皆様の変わらぬご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。